

臺灣總督府  
臨時情報部

# 報部

昭和十四年九月二十日第三種郵便物認可  
昭和十四年四月十一日發行 (第一日、十一日、廿一日發行)



## 第五十八號

(昭和十四年四月十一日)

臺灣家屋稅令實施に當りて  
(財務局)  
臺灣航空の概況(二)  
(遞信部航空課)  
馬の性質から見た愛馬に就て  
(臺灣軍獸醫部)  
海南島の海  
(臨時情報部)  
附錄事變日誌





と云ふ理由は頗る薄弱なものと思料致します尙現時の時局柄をも考慮せられて此の點特に各位の御賢慮を煩はし度いと考へる次第であります。

以下家屋税令の主要なる點に付て概略を説明致します。

### 一、家屋税を課する家屋

家屋税は臺灣に在る家屋に課せらるゝ即ち住家、店舗、工場、倉庫其の他の建物及之に附屬する家屋であるが尙その家屋に附屬する門、塀、庭園、煙突等の附屬設備や暖房、冷房装置、電気、水道排水等の附帶設備は家屋の一部と看做して課税せらるゝことになつてゐる。

### 二、家屋税を課せない家屋

臺灣に在る家屋と雖も次に掲ぐる家屋には家屋税を課せない。即ち

- 一、國有の家屋には全然家屋税を課せない
- 二、一年分の收益金額が十圓未満の狭小粗悪なる家屋

二

には當分の内家屋税を課せない

三、右の外家屋の利用状況を考察して次に掲ぐる家屋には家屋税を課せないことに定められてゐる然しその家屋が有料借家の場合は家屋税を課する。

- イ、國、州、市、市街庄組合又は街庄組合が公用又は公用として使用する家屋
- ロ、公共埤圳組合、公共埤圳聯合會、官設埤圳水利組合、水利組合、水利組合聯合會、水産會、農會、畜産會、米穀統制組合、商工會議所又は保甲の事務所及倉庫
- ハ、神社、寺院、祠廟、教會その他の布教所として使用してゐる家屋但し住家の一部を教會その他の布會所に兼用してゐる場合は家屋税を課する
- ニ、史蹟名勝天然記念物保存法に依つて史蹟として指定せられた家屋
- ホ、私立學校規則に基いて設立せられた私立の幼稚園及私立の學校が直接保育又は教育の爲に使用してゐる家屋
- ヘ、社団法人日本赤十字社、社団法人愛國婦人會、

財團法人臺北仁濟院、財團法人新竹慈惠院、財團法人臺中慈惠院、財團法人嘉義慈惠院、財團法人臺南慈惠院、財團法人高雄慈惠院、財團法人澎湖普濟院、財團法人私立樂山園又は財團法人大日本武德會が直接にその公益事業の用に供してゐる家屋及帝國在郷軍人會、町會又は部落振興會の事務所、國防義會の會館並に専ら國語講習所として使用する家屋

ト、一時の使用に供する家屋

### 三、家屋税の課税標準と税率とその納期

一、家屋税の課税標準は家屋の收益金額である、即ち家屋税は家屋の如何なる點を目標として課税するか云ふにそれは家屋の一年分の收益金額を目標として課税するのである收益金額とは家屋の一年分の標準的な家賃から其の敷地の地代を差引き更に家屋の修繕費維持費等の経費及減價償却額を差引いた正味の收益である、従つて賃貸してゐない家屋に付いて

は賃貸してゐる家屋に付いて評定せられた收益金額に比準して定めることになつてゐる。

二、税率は課税標準百分の二である、即ち一年分の收益金額百圓當二圓云ふことにならる然し之は國稅のみの税率であつて此の外に州縣附加税は國稅の百分の百五十迄市街庄税割は國稅の百分の百迄を賦課することが出来る定めになつてゐるから結局その最高の場合の家屋税額はその收益金額百圓の家屋に對しては國稅が二圓州縣附加税が三圓市街庄税割が二圓合計七圓となつて正味收益の七分が家屋税となるのである。

三、納期 家屋税は一年分の税額を前後期の二回に等分して納むることになつてゐて、その前期は七月一日から二十五日まで後期は翌年の一月一日から二十五迄となつてゐる、然し昭和十四年分だけは前期を十月一日から二十五日迄に定められてゐる。

### 四、收益金額の一般的改訂

一般經濟界の情勢は年々共に消長變化がある譯で家屋

三

の収益状態も亦此の經濟情勢に伴つて變移する譯であるので一旦決定した収益金額で何時迄も課税する場合は遂に無理であり又不公平なる時期に到達することとなるので此の點を考慮して家屋の収益金額は五年毎に全面的に収益金額の調査を行つて一般的に之を改訂することに定まつた次第である従つて此の改訂期迄は家屋の異動のない限り既定収益金額は絶対に變更しないものであること云ふことを承知して置いて戴き度い。

### 五、家屋臺帳

各州廳稅務課並に稅務出張所に家屋臺帳を設けて家屋稅を賦課する家屋に關して次の事項を登録する定めとなつてゐる。即ち

- 一、家屋の所在
- 二、家屋番號
- 三、種類、構造、床面積及収益金額
- 四、所有者の住所及氏名又は名稱
- 五、質權の設定してある家屋には更に質權者の住所及氏名又は名稱
- 六、登記してない團體即ち法人格のない團體が所有してゐる家屋に付てはその所有者總代の住所及

氏名 七、家屋の所有者が寺院、祠廟又は祭祀公業である場合はその管理人の住所及氏名  
家屋臺帳は土地臺帳の様に一般に閱覽することは許さないが、土地臺帳謄本と同様家屋臺帳謄本は請求次第交付する定めになつてゐる、謄本手数料は家屋一個に付金十錢である、又相當郵便切手を添へれば郵送に依つて交付を受くることも出来る。

### 六、諸 申 告

一定期限内に申告を要する事項は大體次に掲ぐる通りであつて之を怠つた時は罰則を適用せらるゝ事ともなるのであるから申告義務者は十分留意して戴き度いと思ふ、然し臺灣家屋調査令に依つて既に申告済のものはその後その家屋に付て何等の異動もない場合は改めて申告するを要しない。

- 一、管理人の就任又は變更の場合  
家屋の所有者又は質權者が寺院、祠廟又は祭祀公業である場合は管理人を設定する必要がある従つてそ

- の管理人が就任し又は變更した場合は申告を要する
- 二、家屋の所有者、質權者又は管理人の住所若は氏名等に變更のあつた場合
- 三、家屋に新に質權の設定をした場合
- 四、家屋の所有權又は質權に得喪のあつた場合
- 五、家屋を建築した場合  
家屋を建築した場合は全然新に一構の家屋を建築した場合を指すのである
- 六、家屋稅を課せない家屋が家屋稅を課する家屋となつた場合及之に反對に家屋稅を課する家屋が家屋稅を課せない家屋となつた場合  
家屋稅を課せない家屋は家屋稅令第三條の規定（施行規則第一條乃至第三條）に依つて家屋稅を課せない家屋を指すのである
- 七、家屋に異動のあつた場合  
家屋に異動があつた場合は大體次の如き場合である。  
(1) 從來一個の家屋であつたものゝ一部が家屋稅を課する家屋、家屋稅を課せざる家屋との二種に

- なつた場合又はその反對の場合 (2) 從來一人で所有してゐた一個の家屋の一部を賣買や贈與等に依つて他人の所有に移した場合又はその反對の場合 (3) 家屋の全部若は一部が滅失し若は家屋としての效用を失つて場合 (4) 從來の家屋に増築をして場合又は家屋の改築、移築、稅轉等を爲した場合 (5) 家屋の附屬設備（門、塀、庭園等）又は附帶設備（冷房装置等）を新設し又は變更し若は廢止等を爲した場合 (6) 家屋の種類を變更した場合即ち住家を店舗となした場合
- 八、納稅地を定めた場合  
蕃地に在る家屋の所有者又は質權者はその家屋の家屋稅を納むる場所を適當なる市街庄役場を選定して之を申告する必要があるのである。
- 九、納稅管理人の申告  
家屋の所有者又は質權者が家屋の所在する市街庄に居住せざるに至つた場合はその家屋の所在する市街庄内に居住する適當な人を選定して之を納稅管理人として申告を爲し納稅上の代理を爲さしむ必要がある。

## 臺灣航空の概況 (二・完)

### 四、飛行場概況

航空の發展に不可離の條件は設備優秀な航空勤務員と性能優秀な航空機にあることは論を俟たないのであるが、就中重大なのは飛行場の良否と其の地上施設の如何である。是は世界共通の原理であつて航空の發達して居る處には必ず立派な飛行場があり、又航空の發展を企圖して居る所は必ず飛行場の設置を第一として着手してゐるのである。

本島に於ては警察航空班の設置によつて鹿港・屏東・花蓮港・臺東の諸地方に離着陸場の開設を見たが同航空班の解散後は軍用地以外に離着陸場を稱するものが皆無の状態となつたのである。

然るに内臺間定期航空及び島内定期航空を開設する爲には其の根據となるべき優秀な飛行場を建設することは

焦眉の急務となつたので總督府に於ては先づ臺北市に所謂空港を設置することとなり昭和七年以來所要經費を検討し來り遂に昭和八年臺北市東郊に十數萬坪の地域を選定して此處に臺北飛行場を建設することに決したのである。而して其の後逐年豫算を以て整地工事並に所要施設の充實に努め昭和十年には略第一期の工事を終了したので爾來内臺間定期航空を初め島内定期航空及び其の他一般の用に供して居るのであるが、將來の國際航空港として大型機の發着に未だ不充分である許りでなく時勢の要求には其の地域が餘りに狹隘なるのをまぬがれないので、昭和十一年度以降所定の擴張に附屬施設の完備に努力した結果今や東洋屈指の優秀な空港として華々しくデビューし國策の遂行に頗る甚大な役割を演じてゐるのである。

一方島内各地に於ても飛行場建設の聲が頗る高唱され

て或は一街民の献身的赤誠に依り或は地方官民の至誠に依つて宜蘭・臺中・臺南・臺東等に相次で飛行場の建設を見たのである。是等の飛行場の中には諸種の關係上附屬施設未だ十分云ひ得ないものもあるが何れも位置の選定宜しく都市の中心地に近く、又其の地域は廣大で整地工事も申分なく施され地方的に見る時全く全國に比類ない優秀な飛行場であつて、島内循環定期航空は勿論本島航空の發展に甚大な貢獻をして居る許りでなく我國航空國策上に寄與する處が又顯著である。

### 五、臺灣國防議會航空部の活動

滿洲國の誕生は東亞新興の一段階に到達したのであるが、歐米諸國の中には常に平和を祈念して和衷協力克く文化の向上、人類福祉の増進に寄與貢獻しつゝある我國肇國の大精神を認識することなくして、徒らに自國の利權の獲得のみに吸々として居り何れの方面より見ても是等の諸國と軌を一にすることが出来ないで昭和八年我國は遂に國際聯盟を脱退の已むなきに至つたのであ

る。而して又海軍々縮條約改訂の期日が目睫に迫つて時局は日一日と緊迫して來たので此の時難に當つて我國皇道の大義を四海に宣揚する爲には彌々國力を充實して國防の完壁を固らなければならない状態に到達したのである。

此の秋に當つて我國南門の鎖鑰であり國防上の要衝である本島の使命は頗る重大になつて來たので、本島に於ては各州廳に國防議會を設置し而して是等州廳國防議會の聯絡統制を圖つて國防の充實に遺憾なきを期する爲に昭和九年二月臺灣國防議會聯合本部を結成して總督府内に之を設置したのである。

之と同時に滿洲事變以來本島に民間航空機關を設けることが廣義國防上必須の事項に屬することに著眼した本島官民は協力して之を企畫し交通局に軍當局の援助指導に依つて同年秋に臺灣國防議會聯合本部内に航空部を設立し之を臺灣國防議會航空部と稱し左の事業を行ひ本島航空の發展を計るに共に國防思想の普及並に國防の充實に寄與せしむることとなつた。

- 一、飛行機及航空施設の整備
  - 二、島内に於ける定期航空又は不定期航空の實施
  - 三、航空技術員の養成並に指導
  - 四、遊覽飛行其他各種空中作業の實施
  - 五、航空防空に關する調査並に研究
  - 六、講演講習其他航空思想の普及
- 而して當航空部の事務所を交通局通信部構内に置き交通局長を航空部長として如上の事業を開始するや、學校關係者及專賣事業關係者は克く本事業促進の重要性を理解して直ちに國産小型旅客機各一機と併せて維持費を寄附せられたのである。寄贈飛行機は夫々「臺灣義勇學校、臺灣義勇專賣」と命名して華々しく南溟に銀翼を輝かしたのであるが同年十月國防議會の發會式に當つては長くも梨本宮殿下の御臺臨を仰ぎ御前に於て壯んな奉祝飛行を行ひ茲に全國に類例のない愛國の民間航空の誕生となつたのである。

爾來同航空部は島内各地を蒼蒼より訪問して地方人士の便乘、航空思想の普及に努め且つ臺北を根據として不定期航空、遊覽飛行、其他の空中作業を行つて着々事業を遂行して來たのであるが昭和十一年四月偶々新竹、臺中兩州下の大地震に遭遇するや折柄の細雨を冒して直ちに出勤して救援連絡に従事し其の面目躍如たるものがあつた。

其の後引續き各種空中作業に従事し、又島内飛行場竣工式等にも度々出場して大いに地方人士に感銘を與へ、又昭和十二年愛國郵便切手類の發賣に當つては其の周知宣傳を兼ね各地に對し航空思想の普及、並に宣傳の爲部員を派遣し、同時に都市訪問全島一周飛行を實施し其他空陸對抗演習、防空演習等に參加して廣義國防の充實を期し、更に陸軍より交通局に保管轉換を受けたる練習機及機材の貸下げを受けて臺北高等商業學校、臺北高等學校學生航空研究會員の指導を行ひ、又近時はグライダーの講習指導並に製作を爲す等と共に本島民間航空の振興に努力しつゝ、あり、更に乗員の養成を初め將來に屬する事業を按ずる時其の活動に俟つべきもの多々あるのである。

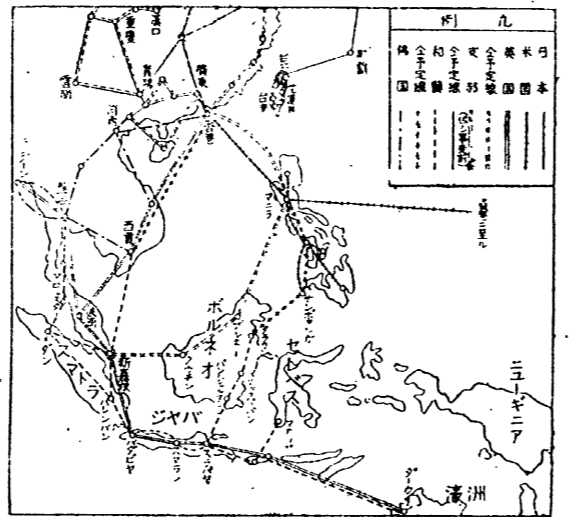
### 六、臺南州國防議會航空團の活動

臺南州國防議會に於ては昭和十二年臺南飛行場の開設と共に本島南部航空振興に寄與せんが爲に航空の實踐に乗り出すこととし臺南州當局を中心に關係者協議の上「青年をして航空に須要なる智識技能を修得せしめ其の身心を鍛鍊せしむると共に航空防空思想の普及」を圖るを目的として昭和十三年一月同州國防議會に航空團を結成して輕旅客機を購入し、又滑空機を整備し航空防空思想を不斷に扶植すると共に學生青年等の航空指導に従事して其の目的の貫徹、事業の振興に努め居り其の企圖其の活動は眞に國策に順應せるものであつて其の將來は期して俟つべきものがある。

### 七、國際航空と本島の地位

歐洲大戰後歐米諸國は競つて戦時に蓄積した航空勢力の國外進出に努め其の結果は國際航空路の開拓となつて、又殊に極東に自國の寶庫たる植民地或は特殊權益を有する歐米諸國は夙に航空連絡を實施し、或は莫大な資

本を投じて其の航空勢力の伸張に寧日ない有様であつ



て、同時に數年前迄は無價値として一顧も與へられな







へミ開拓することは刻下の急務である。然かも航空上本島の地理的優位性は過去數回に亘つて行はれた各種對外飛行は勿論諸外國機飛來の例に徴して既に明らかであり、又本島を根據とした對外航空の實現は技術的に見ても其の可能性が立派に實證されてゐるのであるから我國航空進展上本島は頗る將來性に富み近き將來必ずや對外航空運輸上の大立關として國策上の樞軸となるは明かな處であつて、本島の存在は我が帝國の強さであると共に列強にとつて一大脅威であるのである。

尙参考迄臺北を起點ミ左對外航空距離を擧げれば次の

目的地	距離 (約)
臺北	八二〇 軒
上海	二五五 軒
福州	三六〇 軒
廈門	九二〇 軒
廣東	一七八〇 軒
河内	同三、〇九〇 軒
盤谷	同、二二〇 軒
馬尼刺	同、八三〇 軒
ジャバ	同、五、八三〇 軒

### 八、本島航空年次表抄

年 月	記 事
大正三年三月	野島銀藏氏來臺、臺北・臺中・臺南・嘉義に於て本島最初の飛行(觀覽飛行)を實施す
同 四年四月	高左右隆之氏來臺、新竹・阿婆(屏東)・花蓮港・臺東に於て觀覽飛行を實施す
同 六年六月	米人アート、スミス氏來臺臺中・嘉義・臺南・臺北に於て觀覽飛行(曲技飛行)を又臺北に於ては本島最初の夜間飛行を實施す
同 六年七月	所澤航空隊渡臺

同 八年六月	警務局に警察航空班設置さる
同 八年十月	本島最初の民間飛行家臺中州出身謝文達氏郷土訪問飛行を實施す
同 十一年五月	所澤航空隊再渡臺
同 十二年八月	警察航空班に托し本島最初の郵便飛行(臺北・屏東間)を實施す
同 十四年九月	伊太利機淡水に飛行す(ア・ビネード中佐一行訪日飛行の途次寄航)
昭和二年十一月	警察航空班解散す
同 三年四月	新竹州出身陳金水氏郷土訪問飛行を實施したるが不幸にして墜落す、但し同氏は無事
同 五年五月	交通局通信部に臨時航空調査掛を設置す
同 六年八月	ニューシイランド機淡水に飛來す(チ・チエスタ)氏訪日飛行の途次寄航)
同 六年十月	内務省試験飛行を實施す
同 七年十二月	臨時航空調査掛を航空係と改む
同 九年七月	内務省定期航空準備飛行を實施す
同 九年十月	高雄州出身楊清溪氏郷土訪問飛行を實施す(同氏は不幸にして西部地方を飛行後東部地方を飛行せんとして臺北練兵場墜陸もなく墜落死亡せり)
同 九年十月	臺灣國防議會航空部誕生す、同部は同年十一月以降學生航空研究會員の指導訓練其の他に從事す
同 十年四月	新竹・臺中兩州下大震災に當り國防議會航空部所屬臺中隊救援連絡に活動す
同 十年九月	臺北飛行場新設なる
同 十年十月	内務省定期郵便飛行(週一往復)開始さる
同 十年十月	臺灣親善飛行實施さる(日本航空輪送株式會社機にて實施)
同 十年十月	大阪毎日、東京日々新聞社主催にてロッタヒード機日比親善祝賀飛行の途次本島寄航(往復共)

同 昭和十一年一月	内臺定期航空(週三往復)開始さる
同 十一年七月	宜蘭飛行場新設成る
同 十一年八月	臺中飛行場新設成る
同 十一年八月	島内定期航空開始(東廻り週二往復西廻り週三往復)
同 十一年十月	臺中州出身張坤燦氏郷土訪問飛行を實施す
同 十一年十二月	大朝社機鳳號日運親善飛行の途次本島に寄航す(往復共)
同 十一年十二月	航空係を航空課に改む
同 十二年四月	大阪朝日新聞社機神風號亞歐連絡新記録樹立飛行の途次本島に寄航す
同 十二年五月	神風號歸還に當り本島に寄航す
同 十二年六月	愛國郵便切手類の發賣に伴ふ航空思想普及宣傳行事實施さる國防義會航空部所屬機庫に活動す
同 十二年六月	臺南飛行場新設成る
同 十二年六月	臺北・東京間一日連絡開始さる
同 十三年一月	臺南州國防義會航空團誕生す
同 十三年三月	臺灣國防義會航空部に於てグライダー講習會を開催す(講習員十七名)
同 十三年四月	内臺定期毎日一往復航空開始さる
同 十三年四月	國際航空會社ハイネケル機獨逸より空輸の途次本島に寄航す
同 十三年四月	島内定期循環航空(毎日)開始さる
同 十三年五月	臺東飛行場新設成る
同 十三年十一月	臺南馬公間定期航空旅客輸送を開始す
同 十四年一月	大日本航空會社ハイネケル乃木號日運親善飛行の途次本島に寄航す(往復共)
同 十四年四月	そよ風號(政府使節一行便乗)イラン國皇太子御成婚奉祝並に親善飛行の途次本島に寄航す

## 馬の性質から見た愛馬に就て

臺灣軍獸醫部

四月七日は畏くも 明治天皇が明治三十七年の本日時の重臣を召され産馬の改良に關し御診念の程を告げさせ給ひ調査の勅命を降し給へる尊き記念の日であつて我國馬政計畫の根源であるので本年よりこの日を以て「愛馬の日」と定め國民精神總動員運動の一部門とし全國的に汎く愛馬精神を振作し官民一致愛馬報國の誠を効さぬとするに至つたのである。

而して「馬を愛する」と云ふことは唯心的には此の可憐な動物特に出征軍の艱難を憶ひ銃後に於ける役馬の勞苦を憫み馬に對する愛憐の至情を披瀝するのであり唯物的には馬資源の愛護を關り國防上又産業上の十全を期するのであつて是は素より當然のことである、殊に今次の支

那事變は愈々軍馬の必要度を増すと共に其の戰病斃死等の損耗も莫大であつて其の原因は多々あらうが馬に對する取扱の粗漏或は愛護の不十分即ち馬に對する國民の認識不足を以て最大因由とせられて居る、故に茲に馬の本性を述べ此の觀點から「馬は愛護せよ愛護せば馬は益々立派になり人の爲に盡すものである」と云ふことを話したいと思ふ。

人間は言葉により互に思ふことを語り合ひ又喜怒哀樂の表情も明であるが馬には其の便利が無い、人は其の舉動により馬の心を了解せねばならぬ故に其の本性を理解せねば飛んだ誤解を招き人馬の疎隔を來す様になるのである。

第一 馬は人に對して従順な動物である

よく、人の性は善なり」と云ふ是は孟子が

惻隱之心、仁之端也 (憐愍の心)

羞惡之心、義之端也 (人の不善を惡む心)

辭讓之心、禮之端也 (讓遜退讓の心)

是非之心、智之端也 (善を善とし惡を惡とする心)

の所見から所謂性善説を唱へたのである尤も其の後荀子と云ふ人が

人之性惡、其善者偽也、今人之性、生而有、好、利

焉、順、是爭奪生而辭讓、(後略)

と云つて性惡説を以て反駁したが是は結局心術行爲を専ら意念の放縱から觀察した偏見とせられ矢張り「人の性は善なるものとせられて居る、私は、馬の性は順なるものと確信する、夫は多年育成し使役した經驗と馬體の構造から見て惡性の動物とは考へられぬのである、あの酷暑の日も酷暑の夜も營々汝々として人の命に是従つて働くのは全く之の従順性の現れである、遂に「斃れて後已む」といふが是の實狀は馬に於て能く見ることが出来る、

馬はみんなに苦しくても倒れることなく働き愈々身の持ち耐へぬ時踏眼として倒れるが其の時は正に死の一步前である(特に日本馬然り)過去の戦役事變に於て敵弾に一肢を撃たれ三肢を以て車輪を轆き愈々力盡きて睨目し或は泥濘膝を没するも歩める丈け動いて間もなく絶息した例の尠くないが今支那事變に於て二例だけを參考の爲舉げて見よう。

イ、坂西部隊橋田彈藥小隊の軍馬信夫號の死

やがて夜も白々と明け放れたが行けども行けども泥沼の様な道は盡きない、その馬もその車輪も泥まみれになつてしまつた、人も馬も吐く息は「ハッハッ」と荒い急行軍だ、其の頃より安心して居た信夫號が「ダン／＼」息使ひも荒く次第に疲れを見せて全身「ビッシヨリ」汗になつてしまつた。(中略)

「この泥濘何處迄續くんか」一人が口惜しそうに叫んだ、其の時だ荒武者達の心を察したのであらうか信夫は頭を振り／＼四つの肢に力を入れて引き出す全身拵撃しながら、そして見よ雨の眼を涙が滂沱とし

て流れて居るではないか、然しもう精根は盡きてゐる、今や全く信夫號の姿は見るも痛ましい程である「さうした大丈夫か」小隊長が来た頃は殆んど戦力さへなくなつて居た「だめだおいこの車輛は残つて後から追急して来い」小隊長の聲は悲痛であつた「おい横へ出して休め」分隊長が云つた、然し其の時だつた、路外編組の中へ引込んだ瞬間車が止ると同時に信夫號ははつたりと倒れてしまつた「アッ」一同が駆け寄つた時は既に遅い、齒を噛みしめて最後だつた、あの悪路をあの姿で良くも戦いた、斃れる最後の瞬間迄 (軍馬談話より抜萃)

ロ、橋田歩兵砲中隊彈藥小隊戰馬白雪號の死

白雪號は拒馬河戦團に於て猛進中敵砲弾を右後肢に受けて鮮血淋漓と迸り白雪號の馳せる處爲に紅の帯を敷けるが如く彩られたが白雪號は耳を立て眼を吊り上げ齒をくひしばり乍ら依然歩度を緩め様としない(中略)敵弾は間斷なく白雪號の身邊をかすめる。

篠山小隊長は「白雪號は到底だめだ可愛想だが其の儘にして前進しよう」と命じた友軍の前進を知つたか白雪號は三肢で辛じて體を支へて立ち柳の枝を打ち震はせ乍ら「ヒンヒン」と嘶き狂はむばかりに主を慕ふ姿の餘りいじらしさに見る者の眼を覆はしめた。

倉井上等兵(分隊長)は白雪號の鬣をたたいて「では別れだぞ白雪」とかすれる様な聲と共に離別の涙間の中に白く光つてゐた、前進！小聲ながら殺氣だつた小隊長の號令一下、小隊は蕭々と前進を開始ししばしの後目指す地點に到着して命令を待つた。

「ヒンフフフフ」と異様な馬の嘶がするのではないか。

同時に「オオ」と倉井上等兵黒須一等兵(駈兵)は喉り泣いて居るではないか、倉井上等兵は「小隊長白雪が白雪が」後は只涙ごえ、闇を透して見れば歩行どころか生命まで危ぶまれてゐた白雪が主を慕ひ又己れの任務を解してか繋れてゐた綱を咬み切つて小

隊の後を追ひ己れの出征以來続けた彈藥車輛を見つげ其の轅木に「ビタリ」と馬體をすりよせ息も絶え絶えになつて居るではないか、倉井上等兵は末期の水を與ふべく水筒を手早く抜き出したが追撃急なので一滴の雫すらない犇と白雪號の轡に抱きつき聲を上げて泣いたのであつた。(後略)(軍馬美談佳話より抜萃)

畢竟吾人が馬を利用するのは之の従順性あるが爲であり愛馬の念を起すのは之の崇高の動作に對するものであつて如何に力があり速力があつても従順性なき獅子や虎は永久に用ふることが出来ぬのである、勿論多くの動物は人により従順になるが本性と習性との相違は嚴に區分せねばならぬ。

馬の中にも猛獸の様に嘯んだり蹴つたりして人に反抗するものもあるが是は馬の本性ではなくて人の考へが馬に分らなかつたり又馬が誤解したりして漸次人馬の親和を失ひ其の本性を著しく變狹にした結果と思ふ。

癖馬と云ふものは多くは一度虐待を受けたことのある

馬であつて人の不良少年と其の轡を一にするものである例へば

蹄に鞭を好む者の馬  
蹄に鞭を好む者の馬  
拍車を暴用する者の馬  
狂奔癖  
喉革を締め過ぎた爲  
放馬癖  
小なる頭絡の使用  
銜換を嫌ふ癖  
粗暴の裝鞍をなすため  
鞍置を嫌ふ癖  
前方より苛酷な取扱をなすため  
咬癖

等は軍隊に於ても一般に注意せらるる所である。

實際馬を扱ふ者は三、四歳の子供に對すると思へば間違ひない、子供の事であれば多少悪戯しても腹が立たないし叱るよりも騙し導く方が宜しい、勿論時には懲戒を加へねばならぬ事も無いではないが「鞭よりも人參」が大切である、其は馬には寛容及理性が頗る少いからであつて是は動物の悲しさである、西哲に「馬は取扱者の性質に同化する」と、又我國でも「可愛がる馬に癖なし」とか「良兵良馬を作る」とか「水は方圓の器に従ひ馬は善惡の騎手による」とか云はれてゐる。

## 第二馬は比較—記憶の良い動物である

世俗に愚なことを馬鹿と云ふが馬は馬鹿の代表になる程愚な動物ではない、吾々の家畜の中で犬は最も伶俐であるが是に次では馬か猫と云はれてゐる、羊は最も記憶が少しと云はれてゐる、勿論人に比較して記憶力の乏しいこと即ち智識の懸隔甚しきは謂ふ迄もないことであつて比較解剖から見ても體の器管の重量比は人と馬とは大同小異であるが脳髓は最も其の差が甚しいので分る。馬の記憶に於て最も發達してゐるのは道路方角の觀念と苦痛恐怖に對する觀念であることは注目を要する。

### イ、道路の記憶

馬が道路方角の記憶をよくすることは吾々が日常實見する所である(犬も同じ)源義経が鶴越で迷つた時一老翁に「老馬を先に立て其の行くに任せたら元の道に出たまいふ話がある、吾々が富士の裾

野で演習する時雲低く垂れ込めて全く方角を失ふことがあつたが斯る時は矢張り此の方法で轡を伸して進む時は大低己の底に歸つて来る(尤も馬は少くも二三回は此演習場に來て居るであらうが、嘗て世田谷野砲隊の馬が習志野附近から放馬して自隊に歸つたことがあつたがあの複雑な東京市内を通過して歸つた方向感には一驚せざるを得ない。

外國でもウエッジエーがターウインに報告せる所によれば八年前只一回通過した道路を記憶せる馬あり

### ロ、重量及疼痛の觀念

鹽を積んだ驢が河中で倒れ荷が軽くなつた爲に次にも同じ所で故意に倒れるといふお伽話があるが是は重量に對する記憶である、田舎道で老練な戦馬は車道を踏まず自らは轡の跡の悪い所を歩み車輛を軽くする云ふことを聞いた。

疼痛に對する記憶は實に鋭敏で吾々が日常治療する際一回痛みを受けた馬は仲々治療場には入らないの

が常である。

#### ハ、酷使及危難の記憶

婦人に養はるゝ馬は一般に温順である、即ち東北地方の馬の比較的温順であるのは家族と同居して常に愛情を受けて居るからであるが夫共其に女子供に飼養せらるゝことの多いのも一因であらう、岐阜縣で馬を酷使する主人ミ馬を可愛がる娘ミがあつたが馬は娘に對して極く温和であるが主人には常に敵意を持ち遂に負傷を被らしたといふ記事がある。

危難に對する記憶も強きものゝ如く私の聯隊で「福照」といふ牛のみ恐れる馬があつたがこの馬は入隊前横腹に牛の角で突き刺されたといふ大創痕があつた、今井博士が十勝地方を旅行せるミき一灌木に驚く馬があり其の左臀部に丁字形の熊の爪跡があつたと云ふ。

#### ニ、我家我馬房の記憶

馬が己れの厩舎に執着を持つことは日常最も見易い所で軍隊で放馬のある際何中隊の馬かは馬の走り廻

る方向で分る、又己れの馬房も大凡記憶せるものが尠くない、之に關聯して軍隊で自隊の馬ミ他隊の馬、又は同中隊の馬は若干顔見知りミなるもの如く觀察せらる、従つて馬房を狼りに變へることは馬添へミ云ふ點から不適當であり殊に砲具輓馬に於て然りである。

私が嘗て岩手縣小岩井農場で見習勤務をした時放牧地から午後歸廠するサラブレッド種牝馬が各自の馬房に獨りで間違はずに入るのを見て感心したことがあつた。

#### ホ、數の觀念

數の記憶は乏しいものである、我國では此の報告はないが「ホーン」と云ふ人が驛を鐵道馬車に用ひ五回目に必ず休息することに定めて居たるに驛は四回迄は別に變つた事もないが五回目になるミ急に元氣つき嬉しそうに嘶く例あるを以て「五」の數を記憶すと報告して居る。

#### ヘ、主人、馬丁、親子等の記憶

之も日常見受くる所であつて殊に親子の情愛は人畜果して何れが濃厚なりやは断定出来ないと思ふ。

#### 第三 馬は小心の動物である

其の風貌は如何にも堂々とせる割合に膽は常に小さい、即ち臆病な家畜である、吾々から見れば實に「ツマラン」ものに驚怖逸走する、殊に得體の知れぬ覆はれた物には最も警戒し又白い「チラク」する物體とか速力のある車等には驚くものゝ比較的多い、馬が何故小心かと云ふと彼等の生ひ立ちを研究すれば分ることであつて武器に乏しい馬族は群集生活をなし耳と眼を働かして居り若し敵に襲はれた時は速力を利用して安全地帯に逃げ去る様に過して來たものである、馬の腸の發達して居つて一時に多量の食物を貯へ得ること、後肢の發育せることは其の弱いことを示すものである。

尤も馬には「蹴る」云ふ武器はあるが猛獸等に對しては大した威力の無いことは勿論である、故に何か不意に出會ふと必ず逃げ腰になるのは本性の然らしむる所であ

は之を馴致の力で矯正する他はない。

體は小くても犬猫の如く出會頭に先づ身構へするものとは其の趣を異にするミを知らねばならぬ、馬の臆病なミを以て近眼なりミ云ふ人もあるが疑はしく馬は眼科學上亂視はあるが近視は殆んミ認められないのである。

#### 第四 馬は人に對し忠義な動物である

忠義は人に好意を有し恩を忘れぬ意味である人に最も忠義な動物は犬とせられ次に次いで先づ馬に指を屈せねばならぬ其の爲か否かは知らぬが主人又は上官の爲に働くミを「犬馬の勞」云ふ熟語がある、馬の忠實な例證は古今東西に於て實話に或は物語りに乏しくない。アラビヤ馬が「アーブ」ミ云ふ己れの主人を救つた話やナポレオン戦争の時元の隊に報恩した馬の話は茲に省略して日露戦役ミ今次の支那事變から二三教訓を拾つて見る。

イ、日露戦役軍馬美談として次の記録がある。

寒馬集(現滿洲國安東縣)の戦に於て我騎兵の一隊は敵を見留め本隊に報告を齎らさんと退却の際傳騎小山田騎兵上等兵は敵の射撃に左肩脚部を打貫かれた儘土人小屋の側迄一行を追つて疾驅して来たが急所の痛みに堪へ兼ね馬上より墜落し人事不省なる、其の内身を引張らるゝ心地するので氣付いて見れば日頃熱愛する毛附馬小菊號が軍服の裾を啜へ人を没する雜草の茂れる中に上等兵を引摺り込むを知る上等兵はこの出来事に思はず手を舉げて馬の頸を叩きしに小菊號は其の主の恙なき顔を見て鼻を上等兵の頬に摺りては幾度もなく首を振つた、其の後間もなく敵の「コサツク」騎兵七八騎之に氣付かずして前の道を通過し遠く消え失せたら小菊號は安心した容貌で二三聲嘶いた、上等兵は初めて吾愛馬が敵の追ひ来るを知つて上等兵を草叢の中に隠した殊勝の振舞であつたを悟り思はず感激の涙溢れ馬の頸にすがり男泣きに泣き逐一上官に報告したのである。

支那事變欄橋部隊陸軍輜重兵特務兵長岡喜一の手

生ながら一念云ふものがあることを知りました、大隊長も感心され人間と變らぬ行動である、此様な馬こそ間に合ふのだつたと藤貫號の死を痛く惜んで居られました。

此の馬の主思ひの心根は人も及ばぬ位です、一度として世話を焼かした事もなく放馬も一回もなく斃れた後の悲しさは戦友に戦死されたと少しも變りはありませんでした。(軍馬美談佳話より)

ハ、支那事變 工兵〇〇部隊馬兵綿號の動作(抄)

敵彈物凄く飛來し前進困難となり已むなく待機中股々たる銃砲聲に兵綿號は沈着に逸早く坐し前進命令ある迄器材と馭者の彈除けとなり之が安全を計り或は夜行軍に際しては折柄の闇夜に惡路の爲馭者過つて敵の陷阱に落ちたるに直ちに馭者の袷を啜へ之を引上げ助け或は前進中止間敵彈飛來の時は先づ坐伏し積載器材の安全を固り或は飼付の際には馭者の食事するを見て初めて喰ひ或は渡河に際しては自ら淺瀬を選び決して馭者の先を歩まず常に後續馭馬を誘

昭和十二年十月五日徐家宅附近の攻撃で愛馬藤貫號が不幸腹部に盲貫銃創を受け生命覺束なし(中略)其の内夕方となり私も夕食準備のため可愛い馬から離れ十間位隔つて垣根の處で飯盒炊事中先程繋り繋いで来たのに何時さうして解いたものか狭い路をよろよろ倒れ相になつて何か云ひ度げに苦しもうに涙を溜めて私の前に来るではありませんか、私は驚いて早速元の場所へ連れて行かうと致しましたがもう腰が充分でなく漸く元の所に繋ぎますと急に目を閉ち「バツタリ」倒れて息も絶え絶えになりましたので大變と思ひ大切に居た水筒の水を口に入れてやりました、する元氣が出て「スツク」立上り「ヒヒン」一一聲嘶くではありませんか此の時の私の氣持斯んなに嬉しかつたことは未だ嘗てありませんでしたが夫れより二十分もすると今度は目を赤くして死んで行きました、この時始めて先に私の前迄来たのは死の直前態々主人戀しさに會ひに來た事が分り畜

導し行軍の序列の基本となる等感する行動攻撃に違なし(後略)「軍馬美談佳話より」

ニ、支那事變 愛馬「機古號」主の危険を救ふ(抄)

織田一等兵は「機古」許せよ明日は愈々順徳入城だ、そう云つて牽馬で再び順徳を目指した、偶々畢支江の山腹に到着して一時休止するや突然愛馬機古は何物にか感動したものの如く「ヒヒン」鼻を高鳴らし前掻きし乍ら何事か私語する如く織田の肩先を突くのであつた。

織田は吃驚して顧れば愛馬機古の炯々たる兩眼は前方の高梁畑を凝視し耳を「キリツ」立て何物かに聞き入らんとする格好をして居るではないか、織田は不吉の豫感に襲はれた瞬間前方に於て尖兵は既に徒歩戦に移らんし高梁畑と綿畑の境界線の彼方に潜伏せる敵兵はひそかに部隊を狙撃せんとして居るではないか、部隊は直ちに之を撃退した。敵の遺棄死體二百餘、兵器多數を獲得して大勝を博した。

若しも此の時愛馬に呼び起されなかつたらさうなつ



たこみであらう、身の危険から救はれた許りでなく  
前線警備の重大任務を全うし得たのも實に愛馬機古  
の動作の報告に因るものであつた、愛は動物をも感  
化し報恩の動作をとらしめる無限の力なりと痛感し  
愛馬の顔に額を押し當て感泣したのである(後略)

「軍事美談佳話より」

以上述べ來つた通り要するに馬は温順伶俐にして人に  
好意を有する可憐無邪氣な動物である、之を愛すれば愛  
する程人に馴化し形態も向上し能力を發揮するに至るも  
のである、換言すれば馬は生物であるから其の取扱の如  
何により十の力を十二にも十五にも昂ぐるこゝが出来  
るに共に八にも五にも下つてしまふものである、其の取扱  
の要訣は他なし、馬に愛を以て接するの一事である。

あの不毛の地アラビヤ國にアラブ云ふ世界的名馬を  
産するこゝや我國でも東北地方に比較的良馬を産するこ  
とは愛馬と云ふ要素があるからであつて決して偶然の事  
象ではないのである、一方我日本の馬が歐米諸國の夫れ  
に較べて性質悪く能力の優れなかつた理由は大凡想像し

得らるゝと思ふ、即ち古來日本は武事を稱して兵馬と云  
ひ之を總ぶる者を司馬と謂ひ馬に重きを置いたのである  
が一般には鎖國宗教等の影響を受け國民は家畜に親しま  
ず其の本性を辨へず單に「馬は蹴るもの、牛は突くもの」  
位に危険視し其の取扱が頗る冷淡であつたからである、  
然るに日清戦役を經、北清事變に際會して愈々日本馬の  
劣悪なことを曝露痛感し遂に明治三十七年此の「愛馬の  
日」を惟ふ如き局面に立ち至つた次第である。

其の後三十有餘年我國馬産は大に進歩改善し昔日の面  
目を改め歐米列強の馬匹に大なる遜色なきに至つたとは  
云へ尙吾々は「馬に對する認識」に關し更に一段の反省を  
理解を要するものあるを痛感する。産馬の改良、資源  
の確保等の大方針は政府或は當事者が夫々周到の計畫の  
許に著々實現を進めつゝあるのであるから銃後の國民ミ  
しては與へられたる馬を愛護して其の形態能力を良好な  
らしむることに努むるこゝが必要である、是取りもなほ  
さず國民精神總動員の一要項であり國家百年の大計に副  
ふ所以と確信するものである。



### 南海の寶島 海南南島

過般軍が作戦の必要上から海南島  
に上陸し日章旗がその各地に懸へるや  
うになると共にその經濟上及軍事上の  
重要性が漸く一般に認識せられ、未開  
の寶庫として今や國際的にも多大の關  
心と興味とを惹起するに至つた。  
海南島とはどんな所であらうか!  
現在を眺めその將來性につき  
考察して見よう

海南島 從來この島は日本人には勿論  
支那人自身にすら最近に至るまで瘴癘蠻雨  
の越外の荒地として閑却されて來たが、南  
支那海に於て我が臺灣と相對する重要な位  
置にあり、北は一衣帯水の海南水道を距て

雷州半島と相對し民船で僅か半日の航程  
にある。

臺灣島が甘藷の形状をしてゐるのに對し  
海南島は馬鈴薯の形状をしてゐる。面積は  
臺灣より稍大である。

島の中央に黎母山脈が東西に走つて島を  
南北に二分してゐる。北半には平地が廣く  
南半は山地であるが山地といふても一番高  
い五指山でも二千米にたらず傾斜丘陵が起  
伏する位で海岸近くには緩やかな河川あ  
り、平原が展開してゐる。

島の住民 は二百萬、三百萬、或は  
百五十萬とも云はれる。  
本島住民の大部分は漢民族で往昔流謫の

罪に配せられたものや支那本土の内訌を避  
けて亡命したものゝ子孫である。

言語方面より推察すれば主として汕頭、厦  
門方面よりの渡來者であるやうである。所  
謂海南語は臺灣語と相通する所がある。

原住民は黎族、苗族であり、約三十萬位  
で本島の南方の奥地に住んでゐる。日本人  
を大いに歓迎すると云ふことである。

氣候 本島は熱帯圏内にあり夏季が長  
い。暑熱の候には最高溫度華氏九九度に達  
するが平均溫度八五度である。冬季には最  
低溫度四六度平均溫度六五度であつて一年  
を通じて霜雪を見ない清爽な氣候である。

熱帯氣候の常として一日中の溫度の變化  
が屢々ある。大體晝は暖かく夜は涼しい。  
往昔蘇東坡が吟じた「四時夏にして一雨よ  
く秋をなす」はよく本島の氣候を示したも  
のである。

由來本島は瘴癘蠻雨の地として世人より  
恐れられてゐるが本島の北の玄關海口は我



が臺灣の南支關の高雄より浸き易いとの事である。只々黎地は衛生施設のないのと民度の低い關係上熱帶的流行病が蔓延することがある。然し本島のマラリヤ病は臺灣のマラリヤ病の様な悪性なものはない。

本島は衛生施設をしたならば臺灣以上の樂土となるのではないかと考へられる。

#### 産業

ゴム、椰子の栽培事業は勿論、米の如きは三度とれ、熱帯果物は豊に實り、砂糖に至つては臺灣以上の適地と云はれる。其他珍禽、異獸、奇木等の種類の多いことは全く驚異的で宛ら珍奇な動植物園の觀がある。其他水産業、鑛業一として有望ならざるはない。次の二、三の調査報告は本島の全貌を推知するに足るものがある。

「ロマンチックの山々と、煙の如き楊柳の日の光に満ちて南の國に横はれる此の海南島はやがて牛の乳と蜂の蜜に溢る、樂園となる可し」

「此れ世界の未開地なり、近世文明の光に照さるゝの日に至らば、科學の上にも商業の上にも價值あるものなる事明瞭にして、此の椰子の島は支那領土中肥沃にして豊饒なるもの一なり」



(館事領總國帝)

「瓊崖(海南島)は沃野千里荒地甚だ多く、畜牧には芳草あり、種植には高隲の壤あり、外には各港の魚鹽海利あり、内には各山の礦産森林あり、天然の寶藏には感恩の金、陵水の銀、昌化の綠石、崖

州の白銅、會樂の礦、儋州の錫、藤橋の鐵あり、その餘の各地方にも均しく礦産、森林及官有荒蕪地畜牧の地あるも未だ開かれざる也。」

更に本島は雨量多く河川は水量豊かにして島全體が丘陵地であるから何處でも落差を求めることが出来、水力發電は極めて容易である。電源の豊富は工業の有望を意味するものである。光と熱と水の三要素を備へ而も電源が豊富と云ふに於ては南溟の鹽庫と云はれるのも亦宜なる哉である。

#### 日章旗進んで二箇月!

世界の儼奇の寶島に黎明は訪れた。良民を虐げた横暴な支那軍は日章旗の旗風に遠く黎地に潰走した。一時避難して居た者も皇軍の嚴正なる軍紀を見て續々歸來し加ふる我が温き宣撫工作の手はのべられ島民は心から皇軍に信頼し、街から街へ村から村へと明朗海南島の建設譜は奏せられ

てゐる。即ちその施設の概要を記せば

#### 日語學校

新海南島建設は先づ日本語を普遍させることからといふわけで兵隊さんを先生としてヒノマルノハタ、コンニチハを教へる日語學校が海口に五箇所設置されてゐる。第一、第二は一般市民六十名



(瓊山縣瓊海中學校)

づゝが晝夜別に三時間づゝ、第三は治安維持會職員のため夜間二時間づゝ、第四は警察局長のため晝夜別に二時間づゝ、第五は佛教協會のため晝間二時間づゝ。瓊山では開業會場として午前午後二時間づゝ二百名の市民にそれゝ講習してゐる。

#### 宣撫班

班員の献身的な活動と治安維持會の自發的な活躍に依り宣撫工作は多大の困難を克服して著々成果を収めてゐる。交易所—宣撫班物品交易所の事務所前の掲示板に公定價格表が貼り出され毎日の公正な相場で土民は物資を軍票と交換する。

米廉賣—物資を賣つて軍票を買つた土民達は米賣場前にすぐ行列を作る。元來この島は米の不足な島である上に最近抗日分子の米の買占などで住民大衆の口には米が渡らない。時價一斤十五錢の米が十一錢で買へるので押し合ひもひ合ひである。

#### 仁術隊—博愛會の海南島支部は支部長前田

頭博愛會醫院長河田博士、診療部長前福州博愛會醫院院長橋井博士、防疫部長森大の細菌學の權威者栗本博士、其他醫員看護婦合計〇〇名の醫學の戰士からなる堂々たる陣容で、海口、儋州方面に醫療の

手を伸ばすと共に未開地である本島の防疫調査を進め、渡航邦人に對し醫療に對する安全感を期するは勿論海南島に於ける醫療防疫の花形として活躍してゐる。

#### 總領事館

海南島改略後間もなく初代總領事員谷忠氏を迎へ帝國總領事館は開



(文昌中學校)

#### 館せられた。

爾後煩瑣な渉外事務に又渡航邦人に對する萬般に亘つての指導保護に當つて居る。

#### 臺灣銀行

三月二十一日海口に支店を開業海南島唯一の金融機關として先づ軍

票の交換及預金、送金の業務を開始した。  
將來通信機關の完備を待ち積極的に對外  
爲務業務にも乗出し南支、南洋方面に於け  
る工作的金融機關として活躍することとな  
つてゐる。

**臺拓公司** 南方經營開發の國策會社  
臺拓では早くも海口市の目貫通り博愛路に  
三層樓の堂々たる家屋を借受けて事務所を  
開設。臺拓公司海南島事務所の看板を掲  
げ、十名の産業戦士が先驅として乗込み諸  
準備に大奮である。同公司は先づ牧畜、農  
林事業を試験的に經營し一方では多方面の  
調査をもし地下資源の開發に乗り出す計畫  
である。

**拓洋水産公司** 海南島の近海は魚族  
豊富であり未開の海の寶庫である。而も日

本内地で優秀高價な魚族が多く、冷凍にも  
適して居り、又三亞港附近は天日製鹽の好  
適地であつて鹽は頗る低廉であるから魚類  
の鹽造に最も適してゐる。



(海南島の甘蔗)

この海の寶庫を開拓すべき大使命を帯ん  
で生れるのが本會社である。

**交通・通信** 大阪商船會社では昭和七  
年頃より海南島海口航路を一時中止してゐ

たが今回之を復活した。同地寄港には西  
貢、鯨谷航路船を以てし毎航海往復共寄港  
せしめ復航には基隆に寄港する。近く内  
地・臺灣よりそれ／＼海口—三亞港への直  
航路も開設されることになつてゐる。  
又海口に於て日本内地、臺灣、厦門、廣  
東間に電報にて迅速な通信が行はれ海南島  
文化建設の上に貢献すること大なるもの  
がある。

かくして熱帯の寶庫であり軍事上の樞要  
地でもあり、將又日本及新支那國家の生命  
線である新海南島は着々建設せられつゝあ  
る。熱帯的訓練をパスした我々臺灣住民は  
地理的關係から見ても率先してこの寶庫の  
開發建設事業に協力すべきである。

事変日誌



臨時情報部

三月二十四日

1. 北支の殘敵掃蕩

北支に於て春暖と共に各地に蠢動し初めたる殘敵に對  
し我が軍は活潑なる討匪を續行中なり。この掃蕩戰に  
皇協軍も協力せり。

山東地區

蓬萊縣城占領  
皇協軍張宗毅部隊は二十一日蓬萊縣(山東省)附近に  
在りし凡五百の敵を擊破同縣城を占領、更に大辛店  
附近の敵を急襲大打撃を與へたり同部隊の入城によ  
り蓬萊縣舊保安隊三百が降順を申込みたり。

2. 吳城鎮占領

十八日屏風山、老爺廟の  
作戰を終へし我が精銳部  
隊は臨海空三位一體の下  
に吳城鎮(鄒陽湖西岸)攻  
略戰を開始し先鋒部隊は  
二十三日午後一時三十分  
同城に突入午前十時に掃  
蕩を完了、赫々たる戰果  
を収めたり。

山西地區

得塞園(大同北方豐鎮東方二十五軒)に蟻踞する三百の  
敵を殲滅せり。



3. 文昌(海南島)南方に於て集結部隊を擊破し捕虜百  
遺棄死體八銃器を多數を齒獲せり。

5. 帝國海軍の威容を加ふる驅逐艦「雲風」の進水式は  
左世保海軍工廠に於て舉行されたり。

6.

【潞安】沁縣（山西省東南部）―市内の重要部、敵軍事據点を爆撃多大の損害を與へたり。



【家芥】港口―浙贛線の交通機關の遮断に向へる部隊は熾烈なる防禦砲火を冒し同驛附近にて貨車、線路、軍事施設を爆破せり。

7. イタリア軍隊を戦終了後もスペインに相當長期間駐兵せしめ更に多數の教官を派しスペイン軍備強化に協力することに兩國間に於て諒解成立せり。

三月二十六日

1. 空軍山西省南部の敵陣を爆撃

【垣曲】―集結中の部隊に銃爆を加へ潰亂せしめたり。  
【鞏縣】〔偃師〕〔臨海線〕―敵密集部隊を爆撃

2. 楊子江の守りに就く帝國海軍の威容を加へる砲艦

「伏見」の進水式は盛大に舉行されたり。

三月二十七日

1. 桂州・容奇坪を確保

三〇

珠江デルタ地帯に於て雨期に乗じ蠢動する殘敵を掃すべく二十六日行動を開始し、陳村・順德を経て複雑なる水路を舟艇によつて南進抵抗する敵を撃破午前九時海軍部隊と協力容奇坪、桂州（廣東南方三十五軒）を確保せり。

2. 空軍の爆撃

【河南】〔瀘州〕〔臨海線〕―防空砲火を冒して集結中の敵の大部隊を爆撃し多大の損害を與へたり。  
【廉州】―城内外を爆撃多大の損害を與へたり。

三月二十八日

1. 南昌、武寧攻略戦

一般情况

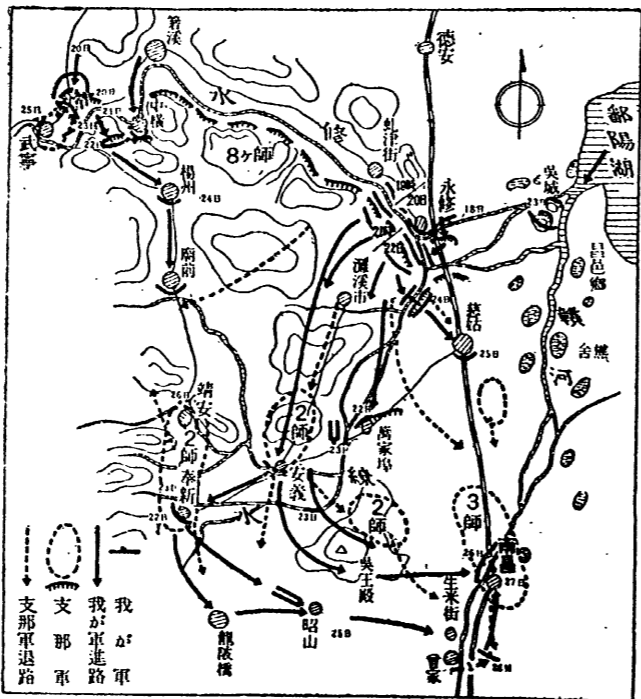
德安、若溪を占領し修水の線に進出對岸の敵と對峙せり、敵は第十九集團軍長羅卓英の指揮する總兵力十七、八箇師を以て概ね武寧以來の地區に堅固なる數條の陣地を構築し我に抵抗を策しつゝありき。

作戰經過の概要

南昌方面

我が中支軍は漢水方面の作戰に引續き南昌方面の作戰準備を著々進めたり、江南の地は折悪しく二箇月に亘る霖雨に地形全く泥濘の巷と化し將兵の辛苦は彌が上にも増せり。

三月中旬戦機は熟し、十八日我が一部隊は永修より下流修水分流の敵前渡河を決行



二十日永修附近虬津街東方地區に於て一齊に修水の敵前渡河を決行敵の第一線陣地に突入これを撃破更

に第二陣地を突破敵條に亘る鐵條網、堅固な掩護構を撃破

二十一日猛砲爆撃掩護の下に第三陣地奪取

二十二日一齊に果敢なる追撃戦に移れり。

戰軍部隊

左右の敵に介意することなく敵中を恣々突進萬家埠―安義―奉新の要地を突破し敵の退路を遮断せり。

第一總部隊

敵を追撃し二十三日奉新萬家埠の線に

二十五日南潯線沿線南下部隊は要地雷子崗・慈姑を突破

二十六日贛江の線に進出

一部隊は曾家附近に於て贛江を強行渡河浙贛線遮断

主力部隊は生米街附近を渡河南昌城門に殺到

二十七日午後六時城内に突入遂に之を占領し城頭高く日章旗を翻せり。

空軍

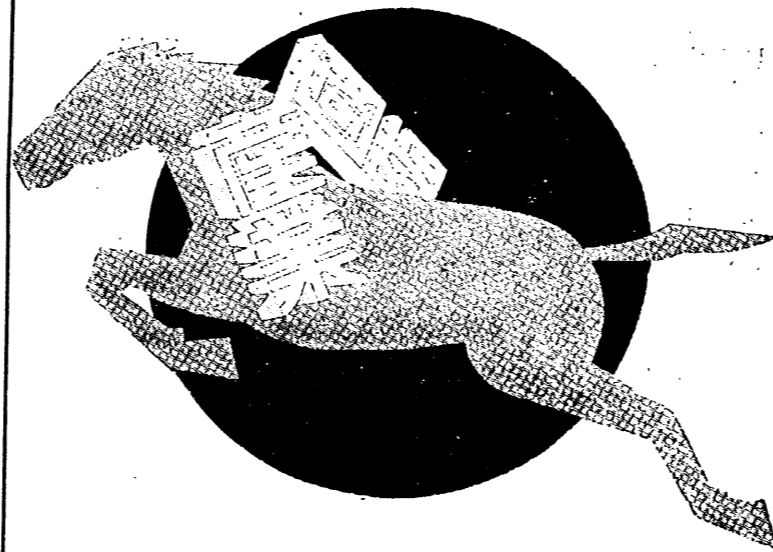
地上部隊に協力敵陣地爆撃、軍需補給線の爆撃、敵密集部に對し巨弾を浴せ痛烈なる掃射をなし、又友軍快速部隊に對し燃料を空中より補給をなす等戦歴に前例なき大活躍をなせり。

武寧攻略

三一



# 愛馬



臺灣北州畜產會

郵報 昭和十四年四月十一日發行 第五十八號  
（每月一日、十一日、廿一日發行）